

※重複の回答は除きました。

| 未然防止 | 解決・解消 |
|---|---|
| 様子を見てほしい | 話をよく聞いてほしい |
| 人の悪口を言わない | |
| 定期的なアンケートの実施 | |
| 傍観者にならないでほしい | |
| 相談しやすい環境を作ってほしい | |
| | いじめに関する情報が入ったらすぐに対応してほしい。様子見は絶対にしないでほしい。 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| アンケート | 面談 |
| | 話し合い |
| 他者を尊重・認めることを理解させる | 相談できる機会の確保 |
| 学期ごとの二者面談の実施 | 加害者を退学にする |
| | 加害者への指導を徹底する。自分が被害者になったらどう思うのか、十分に反省するまで指導をしてもらいたい。 |
| コミュニティづくりをしっかりとって、協調性を学ばせる。 | いじめた場合の罪について理解させる。 |
| | |
| SNS、いじめにつながることの重要性、陰口や嫌がらせの事実はネットに流出すると消すことができないなど、全生徒に理解させる。 | 見て見ぬふりをしない。 事実を隠さずに公表する。 |
| いじめ防止のポスター制作 | |
| 定期的な調査を行う。 | 巡回 |
| 生徒同士の関係を先生たちが把握してほしい | 加害者が後悔するほど厳しい指導をしてほしい |
| プライベートを周囲に話さない。 | いじめの事実は保護者に隠さずすべて伝えてほしい。 |
| 生徒とのコミュニケーションを密にとってほしい。 | 相談には真摯に対応してほしい 生徒と一緒に解決策を見出してほしい。 |
| 生徒たちの見守り | |
| 厳しい指導を行う。 | |
| 生徒に周知する。 | |
| 互いを認め合う人間関係作りを進める | 当事者意識をもっていじめに対応してもらいたい |
| いじめについて話し合う時間を設ける。 | クラスメイト内での声掛け |

| | |
|--|--|
| | |
| いじめと感じたら速やかに相談する | 関係者による話し合い |
| 巡回 | 相談しやすい環境づくり |
| 観察 | 早期発見。正しい情報の周知。 |
| | 被害者を守る体制を整備してほしい。加害者と二度と会わなくて済むようにしてほしい。 |
| 早期発見をしてほしい | 加害者を厳しく指導してほしい。 |
| | 加害者の自宅待機 |
| | 学校と外部機関の連携、被害生徒へのフォローアップを丁寧にしてほしい。 |
| 自分と周囲の関係を振り返って、相手に嫌な思いをさせていないか自省する。 | |
| | |
| クラスの様子を観察する | ホームルームなどでの呼びかけ |
| 日頃から挨拶をしてコミュニケーションをお互いがとるようにする。 | 話し合い |
| 声掛け | |
| 男子がふざけて話している言葉の中に「ひどい表現」を耳にすることがある。こうしたことを注意してほしい。 | 小さな変化に気づいて注意してほしい |
| 相手の立場に立って考えて発言する。 | 一人で悩まず相談する。 |
| ポスターによる注意喚起 | |
| カウンセリング | |
| いじめ防止に関する講座を行う | |
| 巡回 | |
| いじめの加害者への指導や対応を周知して、いじめをやらないように注意する。 | |
| いじめは卑怯で悪辣な行為であることを啓発してほしい。 | 被害者が訴えた場合は、加害者をかばうことは絶対にしないでほしい。 |
| いじめについて、社会的に許されないこと、を言い続けほしい。どのようなことがいじめになるのか、具体例を示して理解させてほしい。社会人になれば、いじめはモラハラやセクハラといった言葉で罰せられることも指導してほしい。 | 当事者の為にならない、双方に心に傷がつくことを指導してほしい。生徒同士だけでなく、大人も交えた場を設けてほしい。 |
| 毎日呼びかけ・注意をする。 | |
| 生徒が気軽の相談できる雰囲気や場所を用意してほしい | |
| 生徒の行動観察 | |
| | |
| 投書箱の設置 | 加害者の名前、写真を公開する。 加害者への個人情報保護は不要と考えます。 |
| 悪口を言わない | 他人の嫌がることはしない。 |

| | |
|---|---|
| いじめの事例を紹介し、いじめを起こさせないようにする | 一度いじめをした生徒はマークしておく |
| 観察 | 被害者に寄り添う 当事者・関係者の話を十分に聞いて判断してほしい。 |
| 相談しやすい環境を作る | |
| いじめに関する集会を行う。 | |
| 防止方法はないと思う。 | 相手を信じすぎないこと。 |
| 防止方法はわからない。 | 他者と深く関わらないこと。 |
| 性別・学年・上下関係など分け隔てなくコミュニケーションをとる。 | 相談しやすい環境の整備。 生徒によって言動を変える教員の対応には不信感を拭えず、本音を話さないと思う。 |
| | 周囲でサポートをする |
| 生徒が集まっている時の様子に気を配り、一緒にいる子が別々になっている等、変化を見守ってほしい。 | 多様なケースがあると思うが、早期発見に努めてほしい。 |
| イヤなことを言われたら、相手に正直に嫌だという。 | 苦手な人から離れる。 |
| 自分が嫌だと思うことは他者にはしない。 | |
| 情報収集 | |
| アンケート | 面談 |
| かかわりを持たないようにする | |
| 解決策はないと思う。 | |
| いじめられないように自分の身は自分で守る | |
| 個人面談 | 逃げることも大事。 向き合うことも大切ではあるが、逃げることは恥ではない。 |
| コミュニケーションを密にとる。 | |
| | 学校がきちんと調査をして解決に導いてほしい 監視の強化 |
| いじめが起こらない雰囲気づくり | |
| 休み時間や放課後の巡回。生徒だけで過ごす時間を減らし、監視を強化する | いじめの被害者が不利にならないような配慮を行ってほしい。 オンラインや別室での授業参加 加害者・被害者双方のきめ細かな対応 |
| 巡回 | 話し合い |
| 生徒同士のかかわりをよく見てほしい | 話し合い |
| 一人ぼっちの生徒を作らない | 悩みを聞く |
| | 加害者への処遇をより重いものにする |
| | 被害者への心のケア |
| | 加害者への再犯防止の指導 |

| | |
|---|--|
| | いじめがあった場合はすぐに保護者に知らせてほしい |
| 正直わかりません。 一度でも嫌な人のことを愚痴で、友人にこぼせば、その「嫌」だと言われている人と関わることに不安を覚えてしまう。 先生が気付くのも難しい。 他者理解や尊重する事の大切さを指導してください。 | 加害者を指導する際に、たくさんの先生の前で指導すれば、加害者にはいじめの再犯の抑止になると思う。 |
| | 話し合いの場をたくさん設ける カウンセラーの常設配置 |
| | |
| 些細なことでも口に出して発言できる環境づくり 無理だと思う | 被害者側を守ってほしい 学校が両者の仲介に入る |
| 定期的なアンケートは有効だと思う。 | 細かなヒアリング 岩商は先生との距離が近くてありがたいです。 |
| 元気のない子への声掛け 実態把握のための調査 いじめ問題を隠すことなく公開する | 昨今は批判がありますが、積極的な介入は必要だと思います。 積極的に関わって、子供たちが安心感を持って生活ができるように 生徒によるいじめ撲滅運動を実施する 迅速な対応 |
| | スクールカウンセラーの活用 |
| 「いじめ」が犯罪であることを周知する | 被害者側の立場に立たせて学ばせる指導を行う。 いじめの事実を関係者だけでなく、生徒全員で共有できるようにしてほしい |
| 見て見ぬふりをしない いじめに関する講演の開催 著名人による講演 | 自分で言われて嫌なことは他者にしない 自分から言いにくい生徒への教員からの働きかけ |
| いじめ問題を隠すことなく公開する 生徒たちがいじめの事実を公表する | |
| | 外部の機関と連携して積極的に対処してほしい |
| | SNSによるいじめは陰湿であり、対応が難しい場合もある |
| | 加害者の心理を探る |
| | |
| 日頃からのコミュニケーション | コミュニケーションをとる時間の確保 いじめられている人を見つけたら助ける 十分な調査、分析を行い、対応策を検討する いじめの事実を生徒に好評してほしい |
| クラスルームやラインを活用し、学校に無記名で連絡できるシステムを作る。 些細なことでも連絡できるシステムを作る。 仲が悪そうだったら席替えや配置を工夫する。 | 月1回外部講師を招いていじめについて学習する機会を設ける 必要以上に干渉せず、助けを求められたら助けるのがいいと思う。 |

| | |
|-----------------------|------------|
| | 継続した見守り |
| | 迅速な対応 |
| 学校側で考えてほしい | 学校はどうしたいのか |
| 何もしないでほしい | 何もしないでほしい |
| | メンタルの強化 |
| 校内の見回りの強化 | |
| SOSを発しやすい環境づくり | |
| | |
| 集団で活動する機会を増やし仲間づくりを行う | |
| 相談しやすい環境整備 | |
| | 難しいと思う |